



## 【温州みかん】

病害虫防除 \*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

7月下旬～8月中旬 〇黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 又は  
シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ

(温州みかん 収穫30日前 4回/温州みかんを除く 収穫90日前 4回)

〇カイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回

〇ミカンサビダニ・アザミウマ類 メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水 100ℓ 収穫7日前2回

樹別摘果 (大津・青島) 裏年の樹は7月中に全摘果しましょう。表年の樹は、この時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果しましょう。

## 【不知火・はるみ・湘南ゴールド】

病害虫防除 黒点病の防除が重要となります。 \*温州みかんの項参照(収穫前日数には注意)

7月下旬～8月中旬

〇ミカンハモグリガ・アザミウマ類 エクシレルSE 5,000倍 20ml/水100ℓ 収穫前日 3回

〇ミカンハダニ・アザミウマ類 メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫14日前 2回

摘果

\*不知火・はるみは樹勢維持のため、生理落果が始まったら樹冠上部1/3から1/4を全摘果します。不知火は生理落果終了後に葉100枚に1果、はるみは7月下旬までに葉120枚に1果を目安に摘果します。

\*夏季に乾燥を受けると高酸になりますので、灌水や敷き藁を行い、過乾燥を防ぎましょう。

\*湘南ゴールドは7月20日時点で果実の横径が20mm以下(1円硬貨程度)と粗皮やス上がり果の発生しやすい表層成りの果実をシンニング(摘果)する方法が有効です。

## 【レモン】

病害虫防除 7月 〇かいよう病・黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ  
又は、イデクリーン水和剤 500倍 200g/水100ℓ  
(葉害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

7月下旬～8月中旬

〇ミカンハモグリガ・アザミウマ類 エクシレルSE 5,000倍 20ml/水100ℓ 収穫前日 3回

〇チャホリダニ・ミカンサビダニ・アザミウマ類 ハチハチアブル(劇) 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 2回

※コサイド3000、イデクリーン水和剤との混用は効果低減を招くのでしない。

## 【キウイフルーツ】

病害虫防除 7月上旬～中旬

〇果実軟腐病 ナリアWDG 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 2回

〇キウイヒメヨコバイ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫7日前 3回  
カイガラムシ類

〇カメムシ類発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

夏季剪定 止め葉が出る6月中旬ごろより夏季剪定を実施し、棚下の明るさを維持しましょう。

\*晴天の日で、土の表面にところどころ日が射す程度

乾燥防止対策 梅雨明け後の乾燥に注意。敷き藁や灌水を実施し、土壌の乾燥を防ぎましょう。

## 【うめ】

病害虫防除 7月中旬～下旬

〇黒星病・環紋葉枯病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫21日前 3回

礼肥の施用 5月下旬～7月中下旬

(目的) 樹勢回復と翌年の花芽充実のため。必ず施用しましょう。 梅配合 120kg/10a

## 【水 稲】

中干し 効果 ① 無効分けつを抑える ② 根の活力を高める ③ 倒伏に強くする  
④ 田面を固くして秋のコンバイン等の作業性を高めるなど。

田面に軽くひびが入る程度を目安に、5日から1週間程度行います。(強い中干しはさける)  
土壌中に酸素を送り根の健全な生育を促します。茎数が1株20本を超えたら実施しましょう。

追 肥 中干しが終わると、追肥の時期となります。

**※元肥一発肥料を使用した場合には追肥の使用の必要はありません。**

幼穂の長さが2cm前後になった頃を追肥時期の目安にしましょう。

キヌヒカリ・はるみ 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12kg程度/10a

さとじまん 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12~18kg程度/10a

てんこもり 出穂20日前頃 化成肥料 17-0-17 18kg程度/10a

施肥時期の目安(5月25日植えの場合)

キヌヒカリ・はるみ 7月22日前後 てんこもり 7月22日前後 さとじまん 7月30日前後  
葉色が濃い場合や茎数が多い場合は倒伏につながる為、追肥時期を遅らせ施肥量を減らしましょう。

出穂期の目安(5月25日植えの場合)

キヌヒカリ・はるみ 8月6日頃 てんこもり 8月11日頃 さとじまん 8月13日頃

病害虫防除 7月中旬~下旬

○紋枯病 リンバー粒剤 3~4kg/10a 収穫30日前 2回

モンカット粒剤 3~4kg/10a 収穫14日前 3回

出穂30日前~出穂期に、株元にかかるよう散布

○イネツトムシ パダン粒剤4(劇) 3~4kg/10a 収穫30日前 6回 常発地区は必ず散布

ニカメイチュウ 又は スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

○ヒメトビウンカ スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

**※縞葉枯病の症状が出ている株を発見したら、株ごと抜き取り園外廃棄を行きましょう。**

**中後期除草に使用する2,4Dアミン塩について、有効分けつ終止期~幼穂形成期前まで、収穫60日前までとなっています。収穫前日数については十分注意しましょう。**

## 【お 茶】

病害虫防除 \*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行きましょう。

6月下旬~7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症 カスミンボルドー 1,000倍 100g/水100ℓ 摘採14日前 2回

※剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布する。

7月中旬~7月下旬

○チャノミドリヒメヨコバイ コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 摘採7日前 2回

チャノキイロアザミウマ

※夏整枝後、2週間を目安に散布する。

チャトゲコナジラミ

① 二番茶を摘採した場合の管理

整枝作業 整枝時期 二番茶摘採10日後を目安に、遅れ芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 二番茶の摘採面

※整枝を怠ると摘採面が不揃いになりやすく、来年の一番茶の減収を招きやすいので、必ず行いましょう。

② 二番茶を摘採しない場合の管理

整枝作業 整枝時期 7月上旬を目安に、二番茶芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 一番茶摘採面の2~3cm上で行いましょう。ただし、二番茶芽が病害虫の被害で十分に生育しなかった場合は、一番茶摘採面より数cm下で整枝します。

\*整枝を怠ると芽数が少なくなり、株面の枝が不揃いになるため、来年の一番茶の減収を招くので、必ず行いましょう。